

平成 22 年 5 月 17 日

平成 21 年度ルート活動報告について

1. ルート活動団体等の活動状況

各ルートの活動状況は下表の通り。全ルートで最多の活動計画方針を掲げている支笏洞爺ニセコルートの取組数が約過半数を占める。

活動運営資金や後継者の不足などの課題を抱える一方、シーニックナイトやウィンターサーカスなどの各活動団体と連携したイベントの継続により地域観光の活性化が図られている。

●各ルートの活動項目数

(単位：項目)

ルート名	当初計画	実施	実施	
			H20 継続	H21 新規
支笏洞爺ニセコルート	97	55	38	17
大雪・富良野ルート	22	22	19	3
東オホーツクシーニックバイウエイ	25	24	15	9
宗谷シーニックバイウエイ	15	15	11	4
釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウエイ	13	13	9	4
函館・大沼・噴火湾ルート	12	12	8	4
萌える天北オロロンルート	10	10	10	0
十勝平野・山麓ルート	7	7	—	7
活動項目数 (合計)	201	158	110	48

2. ルート活動団体等の会議開催状況

各ルートの会議開催状況は下表の通り。ルート間で会議開催状況に差があり、中には行政連絡会議が1度も開催されず、関係機関の連携が希薄なルートが見られる一方、3エリア合同のルート運営代表者会議を定例化し、ルート間の連携体制がより一層強化されたルートが見られる。

●各ルートの会議開催数

(単位：回)

	ルート運営代表者会議など	行政連絡会議など
支笏洞爺ニセコルート	15	5
大雪・富良野ルート	9	1
東オホーツクシーニックバイウエイ	5	1
宗谷シーニックバイウエイ	7	0
釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウエイ	16	2
函館・大沼・噴火湾ルート	6	2
萌える天北オロロンルート	18	1
十勝平野・山麓ルート	5	2
会議開催回数 (合計)	81	14

3. 平成20年度活動報告への助言に対する状況報告

【助言】

シーニックバイウエイ北海道の持続的推進やブランドの形成・活用に向け、引き続き、ルート活動の地域への浸透、人材育成の充実、ルート活動の基盤の強化に努められたい。

●ブランド形成・活用

- ・ 地域資源の発掘やモデルコースの検討、他ルートとの連携、ビジネスを絡めたブランド形成などを展開。

●ルート活動の地域への浸透

- ・ 沿道の清掃活動やシーニックデッキの利活用など、継続的な活動により地域の認知度は着実に向上。
- ・ 一方、十分な認知度とは言い難い状況であり、情報提供の強化や広域連携活動などを通じて、更なる認知度向上が必要。

●人材育成の充実

- ・ 助成制度に係る事業申請の経験を通じて活動資金獲得のノウハウを蓄積する等、継続的に活動を展開していく上で必要な人材を育成。
- ・ 引き続き、外国人や地域住民等との交流・連携を深めていくため、地域の若手を取り込んだ活動のキーマンとなる人材の育成が必要。

●ルート活動の基盤強化

- ・ 行政連絡会議やホームページ、パンフレット等、多様な媒体を活用した密な情報提供・情報共有により、連携体制を強化。